

氏名	馬路			
学位の種類	博士（歴史民俗資料学）			
学位記番号	博甲第 220 号			
学位授与の日付	2017 年 9 月 30 日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当			
学位論文の題目	中国農村地区における女性の地位とその変化に関する考察 －徽州における結婚・出産・養老・表彰から見る女性の位置づけ－			
論文審査委員	主査	神奈川大学	教授	小熊誠
	副査	神奈川大学	教授	佐野賢治
	副査	神奈川大学	教授	安田常雄
	副査	国立民族学博物館	教授	韓敏

## 【論文内容の要旨】

本論文は、宗族組織を含む父系家族制度が発達した安徽省徽州の農村地域において、女性の地位とその変化の実態およびメカニズムについて、明清の伝統的な時代から辛亥革命以降、文化大革命までの近代化の時代、そして現代に至るまでの変化を論じた。研究方法としては、現地でのインタビューを中心に、参与観察および歴史文献などから得た民俗的資料を基に、結婚、出産、養老と表彰の四つの側面について社会学、文化人類学を参考にしながら民俗学的に明らかにした。

本論文の構成は、以下の通りである。

### 第 1 章 序

第 1 節 問題の所在と研究背景

第 2 節 先行研究

第 3 節 概念の説明と研究方法

### 第 2 章 調査地の紹介

第 1 節 徽州について

第 2 節 調査した村の紹介

### 第 3 章 結婚における女性の地位

第 1 節 結婚の儀礼から見る女性の地位の変化

1 伝統的な結婚の流れ及び結婚相手の選択

2 現在の結婚の流れ及び結婚相手の選択

第 2 節 結婚の贈与から見る女性の地位の変化

1 伝統的な結婚の贈与

2 計画経済時期と改革開放以降における結婚の贈与

## 第4章 嫁生活における女性の地位—一人っ子政策による核家族の変化

### 第1節 皖南農村における出産観念の変化

- 1 伝統的な出産観念
- 2 伝統の出産観念と一人っ子政策の交代期に生きる女性たち
- 3 現在の出産観念

### 第2節 家生活における嫁の地位の変化

- 1 若い夫婦の家はどこか
- 2 「両辺住」が与えた影響及び原因

### 第3節 若い嫁の経済生活

- 1 親世帯の伝統的な分家生活
- 2 分家をしなない「分家」における若い嫁

## 第5章 老後生活における女性の地位—商品経済社会における養老生活の変化

### 第1節 子供から孫

- 1 二度目の母親の形成
- 2 孫の世話は祖母の責任か
- 3 孫の世話に関する二度目の母親たちのため息

### 第2節 「婦人家」の養老生活

- 1 農村の徽州フィード・バック養老生活—「養児防老」
- 2 都市化における養老生活の変化
- 3 「等価交換」の養老生活

### 第3節 家族以外の人間交際

- 1 親類交際の変化
- 2 村に女性の交流の変化—広場ダンスを例として

## 第6章 女性に対する社会的期待と女性の社会的地位—男性に従属する地位から「女性は天の半分を支える」へ

### 第1節 伝統社会における女性に対する社会的期待

- 1 貞孝節烈のために建てる貞節牌坊
- 2 宗族の女性のために建てた女祠
- 3 ほかの表彰

### 第2節 1949年以降女性に対する社会的期待—「女性は天の半分を支える」

- 1 社会主義農村の建築者と「鉄姑娘」式の農村女性
- 2 商品経済における女性の表彰
- 3 「良妻賢母式」の女性に対する再期待

## 第7章 結論

### 参考文献

第1章は、序として研究の所在と研究背景を示している。伝統的な徽州の女性の生活は、礼教、宗族、徽州商人などからの影響と束縛を受け、漢民族における女性の生活状況を典型的に反映していた。現在まで残された、清代および中華民国期の多くの女性の生活に関する徽州の古文書によって、当時の徽州女性の地位を分析する。1949年中華人民共和国建国から文化大革命終了に至るまでの社会主義建設時期つまり計画経済時期および改革開放から現在に至るまでは、時代の政治、経

済、社会的状況を視野に入れつつ、話者に対するインタビューによって時代ごとの女性の位置について調査した。内容としては、結婚、出産、養老、表彰の四つの側面について、女性の位置づけを分析した。前三者については、人生の異なる段階における女性の家庭における位置およびその変化について検討した。四つの側面におけるそれぞれの段階において、時代ごとの女性の状況をまとめ、その変化を比較することにおいて、時代ごとの共通性と変化を整理した。異なる時代ごとの女性の地位とその変化を検討するには、それぞれの時代における女性に対する社会的期待との関連を考慮すべきで、女性をめぐる状況について多角的に研究を進めた。

第2章は、調査地を紹介した。徽州の地理的状況、宗族、徽州商人をめぐる歴史的特長、古文書、そして調査した村の概要をまとめた。徽州は、山に囲まれた閉鎖的な地域であるため、穀物栽培は盛んではなく、茶葉栽培と林業が盛んであった。徽州は、安徽省の南端に位置し、江西省と浙江省との境にあるため、物資の流通に条件がよく、宋代には木材、茶、紙、墨などの徽州特産品を杭州や揚州に販売する徽州商人が誕生した。明代には、塩の専売により徽州商人は大きく発展した。これにより、徽州は経済的に大きく発展し、それが大きな宗族を形成し、また女性の地位にも大きな影響を与えた。

第3章は、結婚儀礼と結婚贈答の視点から結婚における女性の地位を分析した。伝統的社会において、親の意思に従って結婚することになっていた女性は、結婚の儀式および贈与において、発言権、選択権および決定権がなかった。『礼記』には「結婚六礼」、つまり納采、問名、納吉、納徴、請期、親迎が決められているが、徽州における清末の文書『夫榮子貴』によって当時の徽州の婚姻儀礼をまとめた。それによると、基本的には「結婚六礼」に沿った内容の儀礼が行なわれていたが、名称が異なっていた。縁談は、婿側と嫁側の母親の同意で決定するところから始まり、さまざまな儀礼が記されているが、その中で嫁の感情や意見は全く考慮されていないことがわかった。また、「哭嫁歌」を取り上げ、嫁が決められた結婚に従わざるを得ないことを前提として、自分の運と地位を嘆き、不満を吐き出した内容を分析している。計画経済時期には、法律では自由結婚と一夫一婦制が決められ、童養媳や妾などの非正常婚は禁止された。しかし、保守的な思想が残る農村部では自由恋愛で結婚する例は少なく、見合い結婚が多かった。そして、当時の結婚式は極めて簡単で、インタビューによってその内容が表現された。改革開放以降は、生産責任制を導入して個人収入が増加するにつれ、伝統的な結婚儀礼が復活しつつも、以前と異なり親の役割は低くなって、結婚当事者が主導する儀礼に変化しつつある。

結婚に伴う贈答について、先述した『夫榮子貴』を基に分析すると、嫁側が求めた結納リストの「礼単」から始まり、結婚儀礼後の嫁の里帰りの贈答まで12回にわたる婿側と嫁側からの贈答、さらに嫁入り道具の内容が細かく分析されている。贈答の対象は、婿側と嫁側の家同士の交換になっている。計画経済時期は、個人財産が抑えられ、各家庭の物資も乏しい時期であり、ほとんど結婚の贈与は行われなかった。1960年代中期以降、村の農業が安定的になるにつれて結婚贈与の交換が再興され、改革開放以降は結納と嫁入り道具が増加していった。それを、インタビューによって具体的に調査し、結納は伝統的な品が今でも使われているのに対し、嫁入り道具は現代的な生活用品に変化している。そして、嫁の個人的な贈与が増加することによって、結婚における女性の発言権、選択権、決定権および管理権が拡大した点を指摘した。

第4章では、女性の出産観念、日常の暮らし向き、および家庭の管理の視点から、嫁の生活上の地位について分析した。中国において、子どもを産む伝統的な目的は、「伝宗接代」と「養児防老」であった。前者は相続の継承であり、後者は養老のためである。相続継承は男子であり、また男子は結婚後も親兄弟と同居することにより親の扶養義務があった。したがって、伝統的には男子が優

先された。女子は逆に軽視され、徽州でも生まれた女子を水に入れて殺す溺女や幼い女子を他家に養い嫁として売り渡す童養媳の習慣があった。その実例をインタビューによって言及している。

一人っ子政策が1982年に憲法で定められた以降、中国の伝統的な出産観念と一人っ子政策の矛盾が現われた。男子が優遇される伝統的観念は継続され、息子を出産すると喜ばれ、娘を出産すると姑などは病院にも見舞いに来ないという状況があった。しかし、産児制限の避妊や墮胎などの現代医療の発展に伴って、嫁は妊娠の主導権を握るようになった。このように見ると、一人っ子政策の中で、女性は能動性を発揮して自分の利益を守るように変化したと言える。

現代の出産観念について、全国における出産意識に関する調査をまとめると、男女問わず子供二人がほしいという割合が最も多くなっている。調査地におけるインタビューによって、現実の出産観念を分析すると、伝統的な「多子多福」の観念が薄くなり、一人っ子政策で取られた「優産優育」の観念が浸透する中、現実に高額な養育費もあって現在でも子供は一人でいいという若者が多いことが指摘できる。さらに、息子を偏愛する伝統は消えてはいないものの、娘を頼りにするという新たな観念の変化が出てきており、現在は娘に関する観念の過渡期になっていると言える。

家生活における嫁の地位について、現在一人っ子政策によって一人息子と一人娘が結婚する例が多くなり、若い夫婦が夫の実家と嫁の実家の両方に住んで、両方の親の面倒を見る「両辺住」の現象が徐々に流行している。1990年代生まれの一人っ子世帯の若い嫁たちは、生活の上では双方の親世帯に頼り、実家、婚家、自分の家庭の中で、娘、嫁、妻という三つの地位を有し、それぞれの地位の権利と義務を持つことによって、高い地位を持つようになったと言える。

第5章は、50歳前後の女性を方言で「婦人家」と呼び、彼女たちの孫の世話と、将来の自分の養老および村の社会生活における交際関係の実態を考察し、「婦人家」の家庭、村社会における地位を分析した。子供たちが出稼ぎに行くため、「婦人家」は孫の世話をする責任を持ち、地位が被扶養者から扶養者になっていると言える。都市化される以前、調査地は伝統的なフィードバック養老制度が続けられていたが、2000年以降、都市化の進展に伴い「婦人家」の老後生活に大きな変化が起きている。一部の「婦人家」は土地の収用で補助金をもらい、基本的な生活が保障できる。補助金や手当がない一部の「婦人家」は近所で働き、養老金を貯める。現在、彼女たちが望んでいるのは、いい親子関係を保った老後扶養である。「婦人家」は、自分の子供たちが望む愛情と労働を提供し、その交換として、動けなくなった時に子供たちからの扶養生活を受けることを期待している。村の「婦人家」たちは、現在、自由な活動空間と権利が大きくなった。夫の男兄弟の家族や、実家の兄弟の家族は日常生活における主な交際相手ではなくなった。「婦人家」たちは自分の興味により、自由意思で娯楽を選ぶことができる。また、彼女たちは村の公共管理に関心を持ち、公共の政治意識が強くなっている。

第6章は、女性に対する社会的期待から女性の社会的地位の変化を分析した。清代、中華民国時代における徽州社会では、男性の観念によって、貞節な女性を褒める貞節牌坊や女祠が建てられ、当時の女性は「良妻賢母」になることが期待されていた。女性は受身の立場でこれに従い、夫の家族に貢献をせざるを得なかった。1950-70年代には、女性は村の建設者である「鉄姑娘」として期待された。これらの社会的期待は、伝統的な性別分業に対する改革が行なわれていたため、女性は男性と同じ平等な地位をもらうことはできなかった。1978年の改革開放以降、女性は経済的なリーダーや女性の企業家、「文明戸」、「好媳婦」などとして期待されるようになった。彼女たちは、能動的に自分の地位を選択する意識が強くなっている。村経済の発展には女性の参加が不可欠であり、安定した社会もまた女性の関わりが大きく影響を与えた。女性が家族と社会に果たす役割は重要になり、それによって女性の社会的地位は大きく上昇したことが明らかになった。

本論分の結論としては、以下のことが言える。清末、中華民国時期において、徽州の女性は女祠や貞節牌坊などの表象がありながらも、男性に従属していた地位を占めていた。1949年以降、徽州の女性は社会的地位が徐々に上昇し、特に1990年代以降、農村の女性は経済的に独立するようになり、また自主的意識が向上して、家庭的、社会的地位が著しく上昇した。その中で、観念の変化は女性の地位の変化を推進する内面的要因となっている。自主的意識の向上は、女性の地位を上昇させる決定的な要因である。有効な社会制度と政策は、女性に対する観念に有効な影響を与えるが、その影響は民国以降から改革開放に至る間はそれほど大きくはなく、1990年代以降大きく関わるようになり、中国女性の位置づけも大きく変化した。

## 【論文審査の結果の要旨】

本論文は、伝統社会から現代社会への政治、経済、社会的変化に伴う「女性の地位」の変化とその要因を分析したものである。中でも、結婚の過程、嫁の生活、老婆の生活、女性の表彰について、清代、中華民国時代の伝統的地位から計画経済時期の大きな変化、さらに改革開放から現代における変化を、それぞれの項目で時代を通して比較している。この視点は、ある時代の特徴を描こうとする歴史学では難しい視点であり、民俗学的方法として評価できる。また、その観点での分析を行なうために使用した資料は、歴史的資料と共にインタビュー資料も多用しており、またそれが効果的に使用されている点は研究方法として妥当だと評価できる。

第3章の結婚贈与をめぐる文献とインタビューにおける歴史的な変遷の分析は、高く評価できる。とくに、贈与品の内容だけでなく、その文言の背景や贈与に関わる人間関係を詳細に分析している点、そして1980年代以降の生活の豊かさに関連した贈与の多元化と、結婚観念の変化による女性の発言力の増大は実証研究として優れている。ただし、これは全体的にもいえることであるが、伝統社会と現代の時代的区分をどのように整理するかが十分明確化されていない点は検討すべきである。歴史的な時代区分と、民俗文化の変化は必ずしも一致するわけではないからである。ただし、1949年以降の計画経済時期においても、1950年代と1960年代後半とは結婚の贈答が変化しているし、改革開放以降も、嫁入り道具が「三転一響」（ぐるぐる回る腕時計、自転車、ミシンとラジオ）から冷蔵庫、扇風機、洗濯機と、白黒テレビに変化し、さらに2000年になるとエアコン、オートバイあるいは車とカラーテレビに変化した点を実証的に検討している点は、時代による変化を明確に捉えている。

第4章の「嫁生活における女性の地位」では、一人っ子政策の実施による息子偏愛から娘偏愛への変化、親子間のメンタル面の依存と日常のケア、若い嫁の実家と婚家に住む「両辺住」という新たな居住形態の出現などの表現は現実をよく調査している。ただし、嫁は住みたいところに住む、家は嫁を拘束できない、出産の権利も嫁が握ると記述されているが、一人っ子政策の結果としてそのような「個」としての意識が深まっていったとするならば、「個」の意識とは国家と対応する「個」であるのか、あるいは社会の変化によってつくられた「個」の変化なのか、この点についての理論的な検討が必要であった。

第5章の「婦人家の生活における女性の地位」では、農村の都市化による新たな互恵的養老スタイル、養老における娘の役割と価値の再発見、精神的・経済的な親孝行の実践、広場ダンスから生まれた友人との新たな親密制と公共性などの分析は、女性たちとその変化を解明する事例として成功している。21世紀以降、農村において土地収用の土地補償費と生活安定補償費を獲得できる婦

人家とそれを獲得できない婦人家との間に新たな格差が生じているが、それぞれに老後の生活を切り開いている実態の分析は興味深い。また、婦人家たちが広場ダンスをはじめ、村の公共管理に関心を持ち、自分の要求を積極的に表し、公共の政治意識が強くなっていると表現されているが、公共管理とは何か、公共意識とは何かについて、更なる分析が必要である。

第6章「女性に対する社会的期待と女性の社会的地位」では、国家や地域エリート集団による模範的女性の「表彰」という視点を導入し、総合的な分析を行なうことにより、これまでの中国の女性研究に対して新たなデータと分析の枠組みを提供したと言える。また、男祠に附属した女祠と独立した女祠の分類、宗族内部の女祠と政府や地域エリートによる女性表彰モニュメントである貞節祠堂の違いを分析しながら、人民公社の「鉄姑娘」そして現在の婦人联合会による「好嫁婦」のキャンペーンなどを通して、期待されてきた女性像について時期を追って跡づけている点は評価できる。さらに、伝統的な良妻賢母に対して、現代の「再期待される良妻賢母」は、家族に対する貢献だけでなく、法律と道徳を守り、生活の水準を上昇させるために労働し、科学的な思想観念を持ち、他人の家族や村とよい関係を保つなど、品行、労働、思想、社会関係など全面的な要求が表わされているとしているが、それは女性の個人的価値の承認であるか、あるいは全面的な国策への包摂であるのか、更なる分析が必要である。

全体を通して、実践的なレベルで女性の地位の変化を分析している点は評価できる。ただし、家族制度面における女性の位置づけに関する記述と分析がさらに深まると社会的側面からの分析が高まると思われる。また、多くの事例を挙げて、女性の出産の権利、家庭における決定権、管理権などについて歴史的変遷を踏まえて論述した点は本論文の特徴と言える。そこからは同じ村におけるヒエラルヒーによる違いを分析するとさらに実証的な研究になると考えられ、今後の研究の進展に期待される。

また、本論文では、女性の問題を社会的側面から民俗学的に検討したが、さらに柳田国男の『妹の力』で示されたような信仰面における女性の役割についても今後研究の進展が期待できる。

以上、本論文は、中国徽州における女性の地位について、結婚、出産、養老、表彰の四つの側面について時代的変遷を整理しながら、その変化について分析しており、歴史資料とインタビュー調査資料を有効に利用して徽州における具体的な事象について新たな視点を加えながら分析されている点は高く評価できる。本論の審査結果に基づき、馬路氏に博士（歴史民俗資料学）の学位を授与することが妥当であると認める。